

# JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE



2012 (平成24) 年2月18日  
全4枚(この用紙含む)

報道関係各位

学校法人 日本女子大学

## 第七回「平塚らいてう賞」贈賞式が開催される

顕彰1件 ジャン・バーズリー氏 (Prof. Jan Bardsley)

第七回「平塚らいてう賞」贈賞式を、2月18日(土)午後2時00分から日本女子大学新泉山館大会議室(目白キャンパス)において開催し、日本女子大学 蟻川芳子 学長より、顕彰1件 ジャン・バーズリー氏 (Prof. Jan Bardsley: ノースカロライナ大学 チャペル・ヒル校 アジア研究学部学部長、准教授) に対して、それぞれ賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

「平塚らいてう賞」は、「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏(1906年日本女子大学卒業)の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設したものです。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えること、また、今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行なっている個人、または、団体を対象としています。

第七回目の今回は、3件(顕彰3)の応募があり、厳正な審査の結果、受賞者を決定しました。

顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行なっている方、あるいは新たに取組もうとしている方に授与します。また本年は、女性映画監督による質の高い作品の普及に長年にわたり取り組み、女性の文化の輪を国際的に広めた功績に対して特別賞を設けました。

本賞は、平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会を作るために行うものであり、今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の応募を期待しております。

問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報渉外課  
「平塚らいてう賞」事務局

電話: 03-5981-3176

FAX: 03-5981-3164

### 海外に広がる「らいてう研究」

「平塚らいてう賞」は、平塚らいてうの卒業百年を記念して、2005年に創設されました。本賞は平塚らいてうの遺志を継承し、「男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動」の顕彰と奨励をはかることを目的としています。

「らいてう研究」が海外にまで広がっている現在、らいてうの存在感の大きさは計り知れないものを感じます。昨年は『青鞥』創刊100周年を記念して、らいてうの母校日本女子大学では国際シンポジウム「今世界が読む『青鞥』」が、『青鞥』発刊の地文京区では、『青鞥』百年の記念展示と記念講演会が開催されました。またいろいろな団体による催しが各地で行われたことも、らいてうへの関心の高さを示すものです。

「らいてうの歩みをみると、そのときそのときに誠実に真摯に深い思索をもって対応し、自己の納得のいく立場をとり、過去に拘泥せず、他からの批評に動かされず、晩年にいたるまで内面から突き動かされるものに忠実に行動をしている」と中野邦氏が評するとおり、自分の意志を貫き通した女性の足跡は、研究の対象として余りにも広く、また魅力的です。今後もこの「平塚らいてう賞」に、価値ある研究や活動の応募があることを期待しています。

2012年2月吉日  
学校法人 日本女子大学 理事長・学長 蟻川 芳子  
～第七回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットより～

### 第七回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第七回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して、「顕彰」に値するとの結論に達しました。ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

#### <顕彰>

受賞者： ジャン・バーズリー 氏 (Prof. Jan Bardsley)  
(ノースカロライナ大学 チャペル・ヒル校 アジア研究学部学部長、准教授)  
研究テーマ： 平塚らいてう、青鞥、フェミニズム、現代文化、日米女性の交流

#### <受賞理由>

平塚らいてう賞の創設以来、本年は第7回目になるが、第6回に続き英語で書かれた研究、平塚らいてうと「青鞥」についてのジャン・バーズリー氏の研究に「らいてう賞」を差し上げることに選考委員会で衆議一決した。平塚らいてうの作品が日本のみならず広く海外でも読まれ、研究されていることを証明するものであり、よるこばしいことである。

ジャン・バーズリー氏の代表作は *The Bluestockings of Japan, New Woman Essays and Fiction from Seito*,

# JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE



1911-16 (University of Michigan, Center for Japanese Studies, 2007) (『日本の「青鞥」：1911年から1916年までの「青鞥」の新しい女のエッセイとフィクション』)である。本書は1980年以來25年余りにわたる著者のらいてうと「青鞥」同人に関する綿密な調査・研究の成果であり、1989年カリフォルニア大学ロサンゼルス校に提出された博士論文を土台としている。

バーズリー氏はらいてうとその周囲にいた「青鞥」の11人の女性たち(野上弥生子や与謝野晶子を含む)のプロフィールを紹介し詳しいコメントをつけたあと、11人すべての女性たちの際立った特徴を示す作品を英訳し載せている。これによって欧米の読者は、日本の初期フェミニズムがどのような歴史的、社会的背景のもとで生まれたかを著者の序文で知り、また実際の作品を通して彼女たちが感じ、悩み、考えていたことを知ることができる。たとえば、らいてうの有名な「元始 女性は太陽であった」というマニフェストを始め、タイトルをあげれば、「女性解放問題の解決」、「新しい女の道」、「人類の一員として男女は平等である」など、1910年代の5年間に「青鞥」同人たちが書いた言葉によってその主張が直接伝わってくるよう工夫され、著者のすぐれた選択眼がはたらいている。英訳も比較的読みやすい。

バーズリー氏の長年にわたるらいてうと「青鞥」の研究から生み出された本書は、らいてう賞にまさにふさわしい業績である。

以上

## 第七回「平塚らいてう賞」<顕彰> 受賞スピーチ (要旨)

ジャン・バーズリー氏 (Prof. Jan Bardsley)

ノースカロライナ大学 チャペル・ヒル校 アジア研究学部学部長、准教授

本日、こうして、平塚らいてう賞をいただきましたことを、心から光栄に思います。この場をお借りして、お世話になった多くの方々に深い謝意を表したく思います。賞の選考委員の先生方、私の博士論文の指導教官であったロバート・エップ教授、UCLAの先輩で、この賞にノミネートして下さった廣田昭子教授、さらに、私をつねに信じ支えてくれた家族や友人たちにも、ありがとうございますの言葉を送ります。

私が目下とりくんでいるのは、1955年出版のらいてう自伝「私の歩いた道」の研究です。これは、自伝中のらいてうの自己像を「民主的人権を手にした日本女性」という当時の言質に関連づけて読み解こうとする試みで、これまであまり注目されなかった戦後初期の女性運動のシンボルとしてのらいてうにスポットライトをあてるものです。

これからも、大胆でパイオニア精神あふれるらいてうの一筋縄ではいかない生涯の解明に微力ながらも貢献していきたいと思っています。

問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報渉外課

「平塚らいてう賞」事務局

電話：03-5981-3176

FAX：03-5981-3164